

シンポジウム 15 企画概要

タイトル	在宅療養の希望を叶えるための退院支援のあり方
------	------------------------

テーマ

在宅医療が必要な人に行き渡るための急性期病院での退院支援のあり方

概要

退院して自宅で過ごしたい、こういった希望を持った人が居た場合、きちんとした在宅医に繋がりがさえすれば、どのような状態でもその希望が叶えられる可能性があります。そして、在宅医療を必要とするような人生の変化は、多くの場合、急性期病院で発生するのです。しかし、実際には、潜在的に最期を自宅で過ごしたいと思っている人全員が在宅医療につなげてもらえるとは限りません。

その理由には様々な側面があります。急性期病院の医師は在宅医療がどのようなことをできるのかをよく知らないので、そもそも、退院が無理だと考え、転院をすすめる事が多くあります。医療の中で患者の意図を代弁するという役割を担うソーシャルワーカーは人手が足りず、多くの急性期病院では100病床に1人以下の人員しか居ません。患者さん自身も、在宅医療を入れてしまうと、今までの主治医と切れてしまうのではないかと、という恐怖心を持っています。

このような複合的な原因で、在宅医療を導入した自宅退院が進まないという現実があります。首都圏での急速な高齢化が進行している今こそ、私達の使命は患者さんが潜在的に持っている、自宅で最期を過ごしたい、自宅でできるだけ長い時間を過ごしたいという希望を誰もが叶えられる社会を実現するにはどうしたら良いのか、退院支援という視点から考えてみたいと思います。